

令和7年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立豊新小学校

令和8年3月

大阪市立豊新小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校教育目標

- ◇豊かな心で、語り合うことのできる子どもを育てる
- ◇新たな知を拓き、真実を学び続ける子どもを育てる
 - ・たくましい身体になる子ども
 - ・ゆたかな心をもつ子ども
 - ・よく考える子ども

2 学校運営の中期目標

現状と課題**【生活について】**

本校では、素直で明るく、進んであいさつをする児童が多い。近年では大きな問題行動も見られず、安定した学習環境を保つことができている。児童会活動は活発であり、豊新スポーツ大会や豊新フェスティバル等の各行事を児童が主体的に企画・運営に参加している。児童のアイデアと行動力によって、学校全体が活気にあふれ、愉しく過ごせており自尊感情を育てている。このような取組の中で、高学年の児童は低学年に対して思いやりをもって接し、低学年の児童は高学年に対して尊敬と親しみをもって関わっている。学年間の温かな関係が築かれ、学校全体の雰囲気により良くなっている。また、保護者や地域からも学校の教育活動に対して多くの支援と協力を得ており、『地域とともにある学校』づくりを進めている。

【学習について】

日々の学習活動においては、「言語活動の充実」を目指した研究を基盤とし、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るとともに、計算力の向上を目的とした反復学習に取り組んでいる。令和6年度に実施された全国学力・学習状況調査の結果においては、国語科および算数科の得点が全国平均をわずかに下回った。この結果を受け、日々の授業改善を進めるとともに、単元ごとの理解度を的確に把握したうえでの補充指導を行い、朝学習や家庭学習等の連携を進めながら、学力の底上げを図っていく。また、ICTを効果的に活用した学習を取り入れ、児童が課題に対して自主的に解決できる力を育成する授業を実践していく。さらに、教科横断型の教育課程を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践を重ねることで、児童の学力向上を目指す。

外国語活動については、引き続き学習内容の深化充実ならびにモジュール学習の確実な定着を図りながら、意欲を高めていく。

体力向上に関しては、各学年とも跳躍力や持久力、俊敏性の向上を目指した指導を展開していく。令和6年度の全国体力運動能力調査においては、今年度も男女ともに全国平均と同等またはそれ以上の結果を示し、学校教育と地域スポーツの連携が子どもたちの健やかな成長に寄与していることを実感できた。今後も運動量の確保する体育科授業の推進、楽しく運動に取り組むきっかけ作りを行い、積極的に運動をする意欲の向上を図っていく必要がある。

日々の教育活動や行事等を通して、児童の自己肯定感や自尊感情を高めていく。特に、一人ひとりのよさや努力を認める声かけや、役割や責任をもって活動に取り組む経験を通して、自信を育てていく。これにより、他者を思いやる豊かな心を育み、真実を学び続ける姿勢を養っていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

中期① 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする児童の割合を83%以上にする。(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

中期② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

中期③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

中期① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合40%以上にする。

(施策4 誰一人取り残さない学の力向上)

中期② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

(施策4 誰一人取り残さない学の力向上)

中期② 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。

(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)

中期③ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)

中期④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を50%以上にする。(施策5 健やかな体の育成)

【学びを支える教育環境の充実】

中期① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の90%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事ICT活用が適さない日数を除く〕

(基本的な方向5 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進)

中期② 令和7年度末にゆとりの日について、週1回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業期間においては1日以上設定する。

(基本的な方向6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)

中期③ 令和7年度末の校内調査の「学校は保護者や地域と連携し、協力し合っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を令和3年度より3ポイント増加させる。

(基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進)

3 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

○令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を91%以上を維持する。R7 96.1%

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

R7 0.97

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

R7 30%

学校の年度目標

○令和7年度の校内調査「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上を維持する。R7 97%

（基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現）

○令和7年度の校内調査「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和6年度より2%増加させる。

R7 56%

（基本的な方向2 豊かな心の育成）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。R7 46.1%

（施策4 誰一人取り残さない学力の向上）

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

（施策4 誰一人取り残さない学力の向上）

R7 国語3年102.6 4年100.5 5年100.6 6年99.2 算数3年103.2 4年101.9 5年108.4 6年96.7

○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。R7 79.4%

（施策4 誰一人取り残さない学力の向上）

○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。R7 87.7%

（施策4 誰一人取り残さない学力の向上）

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を63%以上にする。

（施策5 健やかな体の育成）

R7 69.9%

学校の年度目標

○令和7年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。R7 94%

（施策4 誰一人取り残さない学力の向上）

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の90%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事ICT活用が適さない日数を除く〕 **R7 100%**

（基本的な方向5 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進）

○ゆとりの日を週1回設定する。学校閉庁日は、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業期間においては1日以上設定する。

R6 夏季4日 冬季4日

学校の年度目標

○令和7年度の校内調査における「読書は好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を83%以上にする。 **R7 77%** （基本的な方向8 生涯学習の支援）

○令和7年度の校内調査における「命や人権の尊さについて考えたことがありますか」の項目において肯定的に答える児童の割合を91%以上にする。 **R7 94%**

（基本的な方向6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり）

○令和7年度の校内調査において「学校は保護者や地域と連携し、協力し合っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を89%以上にする。

R7 92%

（基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進）

3 本年度の自己評価結果の総括

令和7年度も、児童は互いに学び合い支え合いながら学校生活を送り、学ぶ楽しさや成長の喜びを実感する姿が多く見られた。日々の授業や学校行事、体験活動を通して主体的に取り組む態度が育まれるとともに、友だちとの関わりの中で自己の良さに気づく児童も増えてきている。教職員も研究授業や校内研修を計画的に実施し、授業改善や指導力向上に努めることで、児童の理解を深める教育活動を展開することができた。

安全・安心な教育環境の充実に向けた取組では、「いじめはどんな理由があってもいけない」と最も肯定的に回答した児童の割合が96.1%となり、前年度を上回る結果となった。また、不登校児童の在籍比率はわずかながら減少し、改善の割合も増加するなど、継続的な支援の成果が見られた。学校生活に関する調査においても、きまりを守って生活する姿勢が維持されており、落ち着いた学校生活が定着している。

学力面では、小学校学力経年調査において国語や算数で前年度を上回る学年が多く見られ、継続的な取組の成果が確認できた。また、「授業の内容は理解できる」と回答した児童の割合も94%となり、授業改善の取組が児童の理解につながっていると考えられる。体力面においても、運動を好む児童の割合が向上し、日常的な運動の取組が成果として表れている。

一方で、学力の定着状況の個人差や不登校児童への支援など引き続き取り組むべき課題も見られるが、総じて本年度の教育活動はおおむね良好に実施できたものと自己評価する。

大阪市立豊新小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 全市共通目標(小・学校) <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を91%を維持する。 R6 <u>91.3%</u> R7 <u>96.1%</u> ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 R6 <u>0.98</u> R7 <u>0.97</u> ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 R6 <u>20%</u> R7 <u>30%</u> 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめアンケートを定期的実施し、当該児童から聞き取りをていねいに行い、校内いじめ対策委員会において事案を解消していくとともに、日常的にいじめはどんな理由があってもいけないことだと指導を継続していく。 ----- 指標 学期に1度以上、いじめアンケートを実施。いじめ対策委員会で認知したいじめについて全教職員で共通理解を図り対応する。	A
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 区役所(子育て支援室)やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図るとともに、校内ケース会議で情報共有しながら支援を継続していく。 ----- 指標 月に1回、生活指導部会及び児童理解研修を実施する。	B
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ICTの活用等による、本人、保護者と学校がつながる回数を増やす。 ----- 指標 週に1回以上クロームブックや電話、放課後登校等を行い、本人、保護者とのつながる機会を年間を通して設ける。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 学期に一度以上、いじめアンケートを実施することができた。(1学期:1回、2学期:1回、3学期:1回) 小学校学力経年調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目において、最も肯定的な回答が96.1%と指標を上回ることができた。いじめ対策委員会で認知したいじめについて全教職員で共通理解を図り、対応できた。職員会議等でも気になる児童の情報共有と共通理解を行い、全体で指導に当たることができた。	

- ② 生活指導部会（月1回）や児童理解研修（計4回）では、配慮を要する児童や課題を全教職員で情報共有し、学校全体で指導にあたることができた。また、関係機関との連携も取ることができた。
- ② 家庭訪問や電話連絡などで、本人や保護者とのつながる機会を増やせるよう、年間を通して実施した。しかし、連絡が取りにくい家庭も一定数あるため、今後も家庭へ協力を働き掛け、関係諸機関等と連携しながら支援を継続していく必要がある。

次年度への改善点

- ① 昨今の SNS での動画拡散やいじめ発覚等に伴い、より細かく子どもたちを見ていくという点で考えると、いじめアンケートの実施回数を増やすことで、子どもたちも「いじめ」について深く考える機会を増やすとともに、いじめの防止にもつながることができると考えている。また、「いじめについて考える日」以外にも、年間を通じて、学校全体でいじめや人権について考える取り組みを行うことで意識付けを行う必要がある。
- ③ 継続して配慮を要する児童や課題を全教職員で情報共有し、学校全体で指導にあたる必要がある。関係諸機関等との密な連携を行い、迅速な情報共有、対応を行っていく。
- ③ ICT 機器を活用しながら、不登校児童とつながることは心掛けているが、依然として不登校児童の割合の改善は困難である。今後もさまざまな専門機関と担任、学校が連携をとりながら支援していく必要がある。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上維持する。 R6 97% R7 97% 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和6年度より2%増加させる。 R6 51% R7 56% 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>社会や集団生活でのルールについて全教職員で日常的に指導する。</p> <hr/> <p>指標 「豊新学びのきまり」に基づき指導に当たる。毎週児童朝会を実施し、月目標や週目標を伝え、指導・支援をする。安全教育の充実を図るために、研修や実践を学期に1回以上実施する。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>体験活動等で得た達成感や充実感をキャリアパスポート等を活用し振り返り、自己有用感の育成を図る。</p> <hr/> <p>指標 学期に2回、キャリアパスポート等で目標の設定と振り返りを実施する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 「豊新学びのきまり」に基づき、学校内だけでなく登下校時や放課後の安全・安心を守るための指導を行った。「豊新学びのきまり」を前後期にわけて、教職員や児童とともに見直しを行い、保護者が再確認できる環境を整えることができた。また、児童朝会を毎週行い、月目標と週目標を設定し、周知することができた。安全教育の充実のための研修や実践も計画通り実施することができた。</p> <p>【1 学期：救急救命講習、さすまた研修、火災避難訓練、防犯研修 2 学期：講師先生による安全科授業、風水害避難訓練（引き渡し訓練） 3 学期：地震避難訓練、附属池田小へ研修】</p> <p>② 学期はじめと学期終わりにキャリアパスポートを活用し、目標設定と振り返りを実施することができた。社会見学や関西万博への遠足などの特別な体験活動を通して、児童が自分の頑張りや成長に気づくことで自己有用感の向上につながるよう工夫した。また、委員会活動や地域での活動等の、活動報告や発表で達成感や充実感を得られたと考える。</p>

次年度への改善点

- ① 「豊新学びのきまり」の見直しを定期的に行い、より安心安全な学校生活を送れるように環境を整えていく必要がある。また、引き続き、安心・安全を意識した行動ができるように『月目標・週目標』を児童朝会で、児童に周知していく。
- ② キャリアパスポートを振り返る機会が少ないため、常に目標の確認や振り返りができる環境を整える必要がある。児童が人の役に立っていると感じたり、自分の良さに気づいたりすることができる活動を取り入れる必要がある。【友だちや教師から良さを伝え合う活動、振り返りや日記を用いた自己評価、頑張りや成長を認める声かけや掲示などを意識的に行う。】

(様式2)

大阪市立豊新小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。 R6 42.1% R7 46.1% ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 R6 国語3年100.3 4年100.2 5年99.8 6年98.7 R7 国語3年102.6 4年100.5 5年100.6 6年99.2 R6 算数3年98.6 4年99.8 5年98.2 6年97.8 R7 算数3年103.2 4年101.9 5年108.4 6年96.7 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。 R6 80.3% R7 79.4% ・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 R6 88% R7 87.7% 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れ、多くの場面で考えを深め合ったり、伝え合ったりできるように工夫し、学習したことを振り返る活動を取り入れる。</p> <p>指標 対話の目標をもとに1日1回、学習の中で話し合う活動を実施する。また、学習の中で振り返る活動を取り入れる。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、家庭学習支援などを行う。</p> <p>指標 単元ごとに習熟を図るため調査を実施し、個々の進捗状況を把握する。学習ドリルなどを、やり直しを含め丁寧に実施し、週に1度必ず点検する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>I C T機器を活用しながら、学習の見通しをもって観察・実験を行い、児童自身でまとめる活動を取り入れる。</p> <p>指標 単元ごとに、I C T機器を使用し、観察や実験結果を記録したものから学習のまとめを実施する。</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>外国語活動・英語教育の深化充実、モジュール学習の定着を図るため、教員研修を充実させる。</p> <p>指標 外国語活動・英語教育の教員研修会を年3回実施する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 各学年において、単元や題材に応じてペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、1日1回以上の話し合い活動を実施することができた。話型やハンドサインの活用により、低学年から高学年にかけて、互いの意見を受け止めながら自分の考えを伝えようとする姿が定着してきている。その結果、小学校学力経年調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、最も肯定的な回答が46.1%となり、全市共通目標である40%以上を上回る成果が見られた。一方で、振り返り活動については、毎時間の実施には至らず、単元ごとに行う学年も見られたため、今後は振り返りの視点や方法を共有し、質の向上と定着を図る必要がある。
- ② 単元末テストや習熟調査を通して、児童一人ひとりの理解状況を把握し、学習ドリルやプリントのやり直しを含めた丁寧な指導を行うことができた。懇談会等を通して家庭とも情報共有を行い、学習の定着を図った学年も多い。また、学力向上 week を計画的に実施したことで、基礎的・基本的な内容の反復や前学年の復習に取り組むことができ、学力の底上げにつながっている。習熟度別授業については一定の成果が見られた。
- ③ 理科を中心に、観察や実験の場面で ICT 機器を活用し、写真や動画を用いて記録・共有する取り組みが進められた。記録した内容をロイノート等で振り返り、考察につなげることで、学習の見通しをもった活動ができている。一方で、単元や活動内容によっては、観察・実験時に ICT 活用が難しい場面もあり、まとめの活動を中心に活用するなど、工夫して対応している。今後は、目的に応じた ICT 活用の在り方を整理し、より効果的な活用を進めていく。
- ④ 外国語活動・英語教育に関する教員研修を年3回実施することができ、教材活用や指導方法についての共通理解を深めることができた。その成果として、小学校学力経年調査において「外国語（英語）の勉強は好きですか」に肯定的に回答した児童が87.7%で目標値は下回ったものの高い水準を維持している。また、週2回のモジュール学習を計画的に実施することで、児童が継続的に英語に触れる機会が確保され、英語学習の習慣化が図られている。一方、学習内容が固定化する傾向も見られるため、指導方法や教材の工夫を進め、活動の幅を広げながらより効果的な学びへと発展させていく必要がある。

次年度への改善点

- ① 話し合い活動は定着してきているが、交流そのものが目的化し、自分の考えを十分にもたないまま参加する児童の姿も見られた。今後は、個で考える時間を確保した上で対話につなげるなど、主体的に考える過程を重視した授業づくりを進めていく必要がある。また、話型については全学年共通のものを活用してきたが、学年の発達段階に応じた話型や交流の在り方を工夫し、思考の深まりにつながる対話となるよう指導の改善を図っていく。
- ② 基礎的・基本的な学力の定着に向けた取組は継続して行われているが、児童によって定着の度合いに差が見られる。今後は、単元ごとの習熟状況をより丁寧に分析し、つまづきに応じた指導や支援を計画的に行う必要がある。

- ③ ICT 機器を活用した学習は一定程度定着してきているが、活用場面や方法に偏りが見られる場合もある。今後は、観察・実験・振り返りなど、学習の目的に応じた ICT 活用の在り方を整理し、児童の思考を深めるための効果的な活用を進めていく必要がある。また、教員間での実践共有を通して、ICT 活用の質の向上を図っていく。
- ④ 外国語活動に関する研修は計画的に実施できているが、研修内容を日常の授業により一層生かす工夫が求められる。今後は、授業実践の交流や指導事例の共有を通して、教員の指導力向上を継続的に図っていく。また、児童の実態に応じて活動内容や言語活動の工夫を行い、外国語を用いて伝え合う力のさらなる育成をめざす。

(様式2)

大阪市立豊新小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標(小学校) ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を63%以上にする。 R6 68.5% R7 69.9%	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成】 運動の日常化のために、児童が意欲的に体を動かそうとする活動や運動強調週間を実施する。 ----- 指標 学校生活アンケート「外で体を動かすことが好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を50%以上にする。	A
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 保健学習や保健週間の設定において、健康で安全な生活態度や習慣を向上させる取り組みを行う。 ----- 指標 年1回以上の性に関する教育を実施する。9月と1月に「手洗い強調週間」を行う。	B
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 栄養指導や給食指導、各教科において、食べ物への興味関心をもち、食べることの楽しさやよりよい食生活を大切にする気持ちを養う取り組みを行う。 ----- 指標 食に関する指導(2回)や豊新の森・学習園などを活用した体験的な活動(1回)を年に合計3回以上行う。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 運動強調週間(なわとび週間・かけ足週間)を計画通りに実施した。小学校学力経年調査「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目において、最も肯定的な回答が69.9%と指標を大きく上回ることができた。様々な取り組みを通して自発的に運動することの楽しさを意識できたことが、指標を上回った要因と考える。	
② 年度当初に「性に関する指導」の年間指導計画を立て、全学年計画通り実施することができた。また、手洗い強調週間などを計画通りに実施することができた。	
③ 給食週間や食に関する指導など、計画どおりに実施することができた。豊新の森を活用した活動は学年によっては行えていない。(作物の実りが少なかったため)	

次年度への改善点

- ① 運動強調週間などにより外で体を動かす機会が増え、体を動かすことの楽しみを知るきっかけになった。今後は運動強調週間以外にも自発的に体を動かすきっかけをつくるよびかけや取り組みをしていくことでさらなる意識の向上が期待できる。
- ② 手洗い強調週間を3回に増やすよりも、週間以外に日常的に健康に生活を送ることへの意識づけ（その時期に応じた呼びかけ等）が必要である。
- ③ 不作により豊新の森を活用した取り組みが難しくなっている。次年度は、豊新の森を活用した取り組みの見直し、あるいは植樹などを通じて新たな取り組みとして体験的な活動を計画立てていく。

(様式2)

大阪市立豊新小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校の年度目標 ・令和7年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 R6 93% R7 95%	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 実施計画に基づいて、計画的に研究授業および研修会を実施する。 指標 教員が一人1回以上の研究授業を行うとともに、学習指導に関する全体研修を8回以上行う。	A
取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 主体的、対話的な活動を取り入れ、児童が自分の考えを持ち、交流を通じて考えを広げる場を設定する。 指標 話型をもとに言語活動の充実を図り、1日1回以上、話し合う活動を取り入れる。	B
取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 年4回学力向上 week を実施し、児童の学力向上につなげる。 指標 学期に1回の学力向上 week (1学期に「計算領域」、2学期に「計算領域」、3学期に「漢字」「計算領域」) を実施する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 実施計画に基づき、教員一人1回以上の研究授業を行うとともに、学習指導に関する全体研修を計画的に実施することができた。研究授業では、教材研究や指導方法について協議を重ね、ICT 機器の効果的な活用や、児童の思考を引き出す発問の工夫など、授業改善につながる実践が多く見られた。また、研究発表校としての取り組みを通して、校内全体で研究に対する意識が高まり、教員の指導力向上につながっている。その成果として、校内調査「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的な回答をした児童の割合は95%となり、目標値を上回って達成することができた。
② 各学年において、話型を活用した言語活動を取り入れ、1日1回以上、ペアやグループで交流する場を設定することができた。低学年では自分の思いや考えを言葉にして伝える姿が増え、高学年になるにつれて、相手の意見を受け止めながら自分の考えを深めて発言する児童が増えてきている。一方で、話し合い活動において、自分の考えを十分にもたないまま参加することで、理解が表面的になる場面も見られた。今後は、個で考える時間を確保した上で交流するなど、主体性をより高める指導の工夫が必要である。

- ③ 計画どおり、学期に1回、年間4回の学力向上 week を実施し、計算や漢字を中心とした基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができた。児童が楽しみながら反復練習に取り組む姿が見られ、前学年の内容の復習や学習のつまずきの解消につながっている。学年ごとの目標達成にも一定の成果が見られ、学力の底上げに寄与している。一方、十分な定着に至らなかった児童については、引き続き個別の支援や繰り返し指導を行い、さらなる学力向上を図っていく必要がある。

次年度への改善点

- ① 研究授業や研修会は計画的に実施できており、一定の成果が見られることから、次年度も継続して取り組んでいく必要がある。また、研究授業で得られた成果や課題を日常の授業改善により確実に生かせるよう、実践交流の場や振り返りの機会を工夫し、学校全体で共有を図っていく。
- ② 話し合い活動は定着してきているが、活動に偏りすぎることで、児童が自分の考えを十分に深めないまま交流に参加する場面も見られた。今後は、個で考える時間や書く活動を意図的に取り入れ、主体的に思考する力を育成した上で対話につなげていく必要がある。
- ③ 学力向上 week は、基礎的・基本的な学力の定着に一定の成果を上げていることから、次年度も継続して実施していく必要がある。一方で、児童の実態に応じた課題設定や取り組み内容の工夫を行い、より効果的な学習となるよう改善を図ることが求められる。また、学力向上 week 後の学習につなげる指導を工夫し、学習内容の定着を確かなものにしていく。

大阪市立豊新小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>【ICTの活用に関する目標を設定する】</p> <p>・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の90%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事ICT活用が適さない日数を除く〕</p> <p style="text-align: right;">R6 96% R7 100%</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <p>・ゆとりの日を週1回設定する。学校閉庁日は、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業期間においては1日以上設定する。</p> <p style="text-align: right;">R6 夏季4日 冬季3日 R7 夏季4日 冬季4日</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号5 DX(デジタルトランスフォーメーションの推進)】</p> <p>ICT(心の天気、デジタルドリルなど)を活用した教育を推進する。</p> <hr/> <p>指標 授業の中で学習者用端末を1日1度以上使用する。ICTを活用した教員の指導力向上のための研修会を実施する。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向番号6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</p> <hr/> <p>指標 ゆとりの日について、週1回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外においては1日以上設定する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の100%である。各学級において毎日の「心の天気」の実施や授業中に「デジタルドリル」や「ロイノート」等を活用することで、学習者用端末を毎日使用する機会が設けられている。また、児童の学習効果が向上するよう、ICTを活用した授業づくりを行うことを目的とした教員間の研修を行い、児童の学びの充実を目指し、活用法の工夫・共有を行った。学校全体で心の天気の入力を確実にするため、グループエリアを活用し、担任で声かけすることを習慣化して行った。</p> <p>② 教職員の働き方改革を進めるための取り組みとして、当初の計画通り週に1回ゆとりの日を設定している。しかし、ゆとりの日に会議が行われることもあった。また、夏季・冬季休業中ともに学校閉庁日を4日間設定することができた。今後も自己研鑽の時間の確保や心のゆとりをもって授業・教材づくりができるよう、教職員一人ひとりが仕事の取り組み方を工夫していく必要もある。</p>

次年度への改善点

- ① 本校の ICT 利用率は最も高い数値を維持できている。来年度も引き続き ICT を効果的に活用し、児童の学力向上につながるよう、教職員一人ひとりが日ごろから意識して利用必要があると考えられる。
- ② 来年度は、時程の見直し、会議の実施方法などを変更することで、ゆとりの日の週 1 回の設定、実施を行うことができると考えられる。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の校内調査における「読書は好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を83%以上にする。 R6 83% R7 77% 令和7年度の校内調査における「命や人権の尊さについて考えたことがありますか」の項目において肯定的に答える児童の割合を91%以上にする。 R6 97% R7 94% 令和7年度の校内調査において「学校は保護者や地域と連携し、協力し合っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を89%以上にする。 R6 94% R7 92% 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号8 生涯学習の支援】</p> <p>学級文庫の充実ならびに地域の方の読み聞かせ活動の活性化を図り、児童がより読書に親しめる機会を増やす。</p> <p>指標 週に1回、図書館を利用する。また、年に2度読書週間を実施する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向番号8 生涯学習の支援】</p> <p>芸術鑑賞行事ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施し、心豊かな子どもの育成を図る。</p> <p>指標 芸術鑑賞行事、3～6年生で社会見学を確実に1回実施する。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向番号9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>教育方針や教育活動の様子を、「学年だより」等を通してわかりやすく伝える。</p> <p>指標 月に1回、学年だより等を地域・保護者に配付する。週1回以上、学年の活動をホームページに掲載する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 令和7年度の校内調査「読書は好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合は77%である。目標の数値を下回っており、学年が上がるにつれて肯定的に答える児童が減少しているため、高学年が本に親しめるような工夫を行う必要がある。併せて、今年度よりも全学年の児童が本を楽しめる機会を計画していく必要がある。夏休みに学級文庫の補充・点検を行い、どの学年の児童も読書に親しめるように環境を整えている。図書委員会では「読書週間」を企画、実施し、児童が本に触れる機会が増え、意欲的に本を読むようになっている。</p> <p>② 令和7年度の校内調査「命や人権の尊さについて考えたことがありますか」の項目において、肯定的に答える児童の割合は94%であり目標の数値を上回った。芸術鑑賞を1度行い、どの学年も複数回の社会見学や地域見学を行うことができた。来年度も活動の</p>	

精選を行い、児童の実態や学習内容に適した体験活動を計画、実施していく。

- ③ 令和 7 年度の校内調査において「学校は保護者や地域と連携し、協力し合っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合が 92%であり、目標の数値を上回った。当初の計画通りに月 1 度、学校だより・学年だよりの配付を行った。また、週に 1 度以上、学年の様子を学校ホームページに掲載し、学校の情報の発信を行った。来年度以降も豊新小学校を「開かれた学校」として、保護者や地域と連携、協働していく。

次年度への改善点

- ① 読書週間での読み聞かせや読書カードの工夫を行っているが、児童のアンケート結果を見ると、高学年になるにつれて読書を好きな児童の割合が減っている。そのため、来年度以降、高学年も読書に親しめるよう読書週間の取り組み方を工夫する必要がある。また、読書週間以外にも習慣的に読書に親しむことができる取り組みを行い、数値の向上を図る必要がある。
- ② 芸術鑑賞や社会見学は来年度以降も引き続き確実に行っていく。
- ③ 今後も月 1 回の学校だより・学年だよりを配付し、保護者や地域との連携を図っていく。また、ホームページについては行事によって週に 1 度更新できていなかった学年もあったため、今後は全学年が週 1 度徹底して更新できるようにする。